

佐伯鶴城新聞

since 1911

第81号

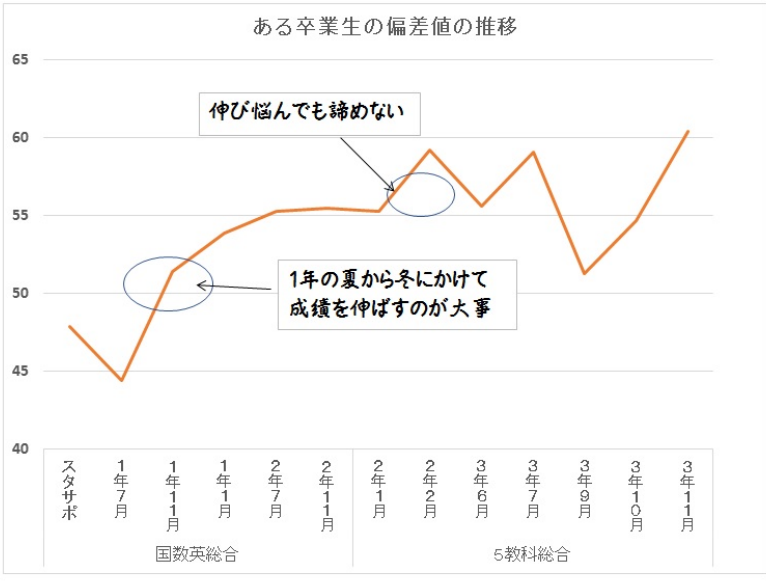
所立校部
集鶴鶴部
編分伯等
大佐高新

任者悟郎
責真太
集田健
編吉橋

1学期が終了 規則正しい生活で 夏に備える

終業式が今週末に迫り、夏休みに入ろうとしている。今回は、生徒に1学期の自宅学習や生活習慣について振り返ってもらい、また進路指導の先生から上手な時間の使い方を聞いた。

今週で1学期は終了し、29日から夏休みが始まる。そこで今回、生徒に普段の過ごし方や自宅学習について振り返ってもらった。



放課後も勉強に余念がない3年生

「周りの時計や携帯は置かないようにすること」と続いてアドバイスした。

黒澤さんは「どの範囲までするかを決めて、当日までに確実に終わらせるのが良い」と話す。木下さんは「周りに時計や携帯は置かないようにすること」と続いてアドバイスした。

水泳部の佐々木音寧さん(二一)に話を聞いた。電車通学のため帰宅時間は21時頃になるという。「勉強を始められる時間はもう決まっています」と話した。

「起きる時間、寝る時間、家に帰る時間、最も大切な勉強を始める時間の4つを決めることで規則正しい生活を過ごすことが出来る」と説明。受験を控える3年生に向け「成績が上がらないという時期は誰にでも来るので、そこで諦めないこと」と呼びかけ「1年生は文理選択、2年生は3年次のコース選択を考える時期。志望校をある程度決めて進路研究していかないといけない」と話した。

夏以降の生活を充実させるため、進路指導主任の小野鉄次郎先生(地歴科)は日頃の暮らしの中で固定するべき「4つの時間」を語る。

合縁奇縁 第12回

今回紹介するのは、今年度赴任されてきた校長の志賀信幸先生。趣味や憧れの人の尋ねると、多すぎて答えきれないという程の多趣味多芸ぶり。他にも、学生時代の思い出やオスシメの本などを話してくれた。

【趣味】テニス、バードウォッチング、スクーバダイビング、釣り、農業。最近のトレンドは

人生は楽しいことだらけ

校長 志賀信幸先生

【おススメの本】『ローマ人の物語』。ローマの歴史ではなく、1人のローマ人に焦点があたった、塩野七生さんの大長編。

【色々な分野を勉強することについて】本を読めば、面白いことがたくさん。一度その世界に首を突っ込むと止まらなくなる。

【鶴城生に一言】人生は楽しいことだらけ。色々なことを勉強した分だけ面白いことが増えていきます。

(吉田 真悟)

まもなく開幕 第41回 全国総合文化祭

本校から4部門に出場

第41回全国高等学校総合文化祭が、7月31日より宮城県で行われる。出場する科学、吟詠詩舞、新聞・写真の各生徒に大会へ向けた抱負などを聞いた。

「大分県指定天然記念物カマエカズラの花・葉・種子の特徴について」の研究発表を行う科学。参加する米田幸誠さん(三三)は、「カマエカズラは希少種であるため、先行する実験が



顕微鏡を利用して観察(科学部)



吉川琴葉さん(右)と佳花さん(左)

ほとんどなく、まさにゼロから始めた研究だった」と振り返る。また、高橋朋也さん(三一四)は「本番では他校の良い所も吸収しながら、観ている人に興味を持ってもらえるような発表をしたい」と話してくれた。

吟詠詩舞には吉川琴葉さん(三一四 写真右)と吉川佳花さん(二四 左)が出場する。二人は祖母の下で10年以上演舞を続けてきたといい、琴葉さんは「これまでの練習の成果を出したい」と意気込む。また、佳花さんは「吟詠の『節』

の抑揚に注目して聴いてほしい」と話し、「自分らしく頑張る」と語った。

新聞では仙台市を中心に、4日間の研修取材を行う。部長の吉田真悟さん(二二)は「全国のたくさんの方と一緒に新聞を作ることのできる貴重な機会。宮城というめったに訪れることのできない地での開催でもある。4日間であくさんの事を学びたい。また、(同じく宮城県で開催される)写真部門でも頑張りたい」と抱負を述べた。

(橋 健太郎)

【色んな分野を勉強することについて】本を読めば、面白いことがたくさん。一度その世界に首を突っ込むと止まらなくなる。

【鶴城生に一言】人生は楽しいことだらけ。色々なことを勉強した分だけ面白いことが増えていきます。

(吉田 真悟)

知らないうちに緊張感がなくなってしまう。同じような文句を聞いたことがあり、理解していたつもりだったが、最近になってようやく実感した。高校に入ってから、勉強や部活動に必死でついて行こうとする。至らないところもあったが、3学期頃になると慣れてしまった。すると知らず知らず「いつも通りすれば大丈夫」と思い込んでしまっていた。2学年が中だるみの年だと言われる理由の1つには「慣れ」がある。そして私はままと嵌ってしまった。勉強の難易度も、部活動に就いての責任も、時間が経つにつれて高くも重くもなっている。いつまでも同じ所を見ていて、ついて行けるはずがないのだ。出来る事が続く。逆には、出来ない事が続く。逆には、出来ない事が続く。逆には、出来ない事が続く。

触角

2年に進級してから4か月間の間、忘れ物や生活リズムが崩れることが度々あった。「今日こそ直さなければ」と、意気込むが、実行に移せなかった。長らく続いた試みが、このままですと想像すると、強烈な危機感を抱いた。「慣れ」というものは非常に恐ろしい。同じことを繰り返していると、知らぬうちに緊張感がなくなってしまう。同じような文句を聞いたことがあり、理解していたつもりだったが、最近になってようやく実感した。高校に入ってから、勉強や部活動に必死でついて行こうとする。至らないところもあったが、3学期頃になると慣れてしまった。すると知らず知らず「いつも通りすれば大丈夫」と思い込んでしまっていた。2学年が中だるみの年だと言われる理由の1つには「慣れ」がある。そして私はままと嵌ってしまった。勉強の難易度も、部活動に就いての責任も、時間が経つにつれて高くも重くもなっている。いつまでも同じ所を見ていて、ついて行けるはずがないのだ。出来る事が続く。逆には、出来ない事が続く。逆には、出来ない事が続く。